

# 世界に通じるお遍路に

四国八十八カ所霊場巡り（お遍路）を、観光資源として振興するための連携が国内外で広がっている。愛媛県愛南町と香川県宇多津町はスペインの世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」の巡礼路上にある自治体と交流を開始。現地でも4日、記念式典を開く。5月下旬には四国地方整備局の主導で、自治体らと遍路をキーワードにした街づくりの討議が始まった。



「お遍路の白装束や地図など資料を現地で常設展示してもらおう」。遍路とおもてなしのネットワーク（理事長、梅原利之四国旅客鉄道相談役）の松岡敬文理事は4日、スペイン北部カスティーリャ・レオン州のモ

リナセカ町を訪問。愛南町長と宇多津町長の名代として、モリナセカ町との交流開始記念式典に臨み、石碑を建立する予定だ。

今年中にモリナセカ町のモリナセカ町はサンティアゴに巡礼者が数多く宿泊する施設内に、遍路を紹介するギャラリーを開設。松

岡氏ら訪問団が持参した資料を常設展示する。欧州の巡礼者や観光客に四国固有の文化を効果的にPRするのが狙いだ。

モリナセカ町はサンティアゴに向かう巡礼路の中心（松岡氏）という。来年以降モリナセカ町の関係者を四国に招き交流を

## 四国の自治体や振興団体

## スペイン巡礼路と交流活発

拡大。四国の二町は世界遺産ではどのような場合に交産登録に成功したスペインから文化遺産の整備・PR可能性があるのか説明した。

具体的整備計画に関して意見交換する連絡調整会議を今年度中に2回開催する予定。「自治体に計画をとりまとめてもらいたい来年度高松市で初めて開催され以降、事業を実施。2011年度には完了したい」と、近

国内では、四国の街づくりに遍路を活用する方法を討議する会議が5月下旬、高松市で初めて開催された。主催者の四国地方整備局によると、4県と約40の市町村、非営利組織（NPO）などから約120人が集まった。昨年制定された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」を活用し、遍路道の整備だけでなく、景観向上へ各自治体が連携する。

整備局は会議で、うだつの街並みで知られる脇町中心地区（徳島県美馬市）などの電線地中化や看板撤去の事例を紹介。各地の遍路（高松支局 小喜晃一）